

音楽科学習指導案

呉市立仁方小学校

教諭 末永 深雪

1 日 時 平成25年7月1日（月）～平成25年7月5日（金）

2 学年・学級 6年1組 男子18名 女子14名 計32名

6年2組 男子18名 女子14名 計32名

3 題 材 まとまりのあるせんりつをつくろう

4 題材について

○ 題材観

本題材は、小学校学習指導要領音楽（平成20年）の第5学年及び第6学年「A表現」（3）の指導事項「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」を受けて設定した。本題材は、旋律の特徴を比較して、音の高さの変化や始まる感じ、続く感じ、終わる感じ、反復など音楽の仕組みを理解する活動を行い、まとまりのある8小節の旋律をつくる学習を通して、音を音楽に構成する能力を育成することをねらいとする。また、〔共通事項〕については旋律、音階や調、反復、変化を扱うものとする。

旋律づくりの学習にかかわり、次に示す教材を用いる。「よろこびのうた」は、C（ド）からG（ソ）までの音域で、同音進行、順次進行で旋律が構成されており、なだらかな音の流れを感じ取りやすい教材である。「陽気な船長」は冒頭で跳躍音程が使われ、歯切れの良い元気な印象を感じ取りやすい教材である。「友だちはいいな」は、冒頭で跳躍音程が使われ、盛り上がる感じの音の流れを感じ取りやすい教材である。「静かにねむれ」は、前半がAA'形式になっており、始まる感じ、終わる感じ、続く感じ、反復など音楽の仕組みを感じ取りやすい教材である。これらの教材は、音のつながりや曲全体のまとまりが理解しやすく、旋律づくりの導入で扱うのに適していると考ええる。

○ 児童観

本学年の児童に、まとまりのある旋律づくりに関する調査（平成25年6月25日実施）を行ったところ、「始まる感じ」「続く感じ」「終わる感じ」にするために適切に音を選ぶことができ、かつ反復を生かして旋律をつくることのできた児童は45%であった。また、「始まる感じ」「続く感じ」「終わる感じ」について、その音を選んだ理由を記述できた児童はそれぞれ、15%、11%、39%と少なかった。この結果から、本学年の児童は、旋律づくりの学習について、音のつながりや曲全体のまとまりを意識することに課題があり、どの音に進めば音楽がまとまるか、始まる感じ、続く感じ、終わる感じにするためにはどんな音の使い方をすればよいかなど、音の高さの変化と音楽の仕組みについて理解させる必要がある。

○ 指導観

指導に当たっては、旋律の特徴を比較する活動（以下「比較する活動」）を授業の導入に取り入れ、音のつながりや曲全体のまとまりを意識できるようにし、授業の展開における旋律づくりに生かしていくようにする。「比較する活動」では、まず、二つの旋律を聴き比べ、旋律が醸し出している雰囲気を感じ取らせる。次に、階名で歌い、楽譜を見比べる活動を行う。具体的には、音符をつないで旋律線を描き、その形を見て、音の高さの変化を目で確かめさせる。さらに音の高さに着目して意見を交流し合い、最後に楽譜を見ながらもう一度聴いて、音の高さの変化と旋律が醸し出している雰囲気を確認させる。

旋律づくりでは、「比較する活動」で児童が感じ取ったこと、気付いたことをポイントとしてまとめ、旋律のつくり方として児童に提示する。また、児童が音の高さに着目することができるように、リズムを固定にして、音をC（ド）からA（ラ）の6音に限定し、音楽構成図に記入しながらつくらせる。自分で音を選択してつくることが難しい児童には、使用する音を3～4音に限定したり、上行するパターン、真ん中で山

になるパターンなどいくつか例を示したりして、児童が作りたと思う旋律の作り方についてヒントを与えていく。また、8小節の旋律をつくる際には、見通しをもたせるために、まず、音楽構成図を基に、曲の山をどこにもってくるなど、作りた音楽全体の形を考えるように助言する。また、実際に音を出して、いろいろと音のつながりを試しながら、イメージした旋律に近づけるようにする。さらに、グループで聴き合う活動を取り入れ、助言し合ったり、よいところを認め合ったりして、自信をもって学習に取り組めるようにする。

5 題材の目標

- 旋律の音のつながりや始まる感じ、続く感じ、終わる感じ、反復を考えて、見通しをもってまとまりのある旋律をつくることができる。

6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①旋律の特徴に関心をもち、見通しをもってまとまりのある旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の音の高さの変化やハ長調の音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。	①旋律の音のつながり方（同音進行・順次進行）を生かし、見通しをもって2小節のまとまりのある旋律をつくっている。
②始まる感じ、続く感じ、終わる感じや反復を生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	②旋律の反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ③旋律の反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の考えや意図、見通しをもって	②旋律の音のつながり方（跳躍進行）を生かし、見通しをもって2小節のまとまりのある旋律をつくっている。 ③旋律の反復や変化、始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、8小節のまとまりのある旋律をつくっている。

7 指導と評価の計画（全6時間）

次	時間	ねらい	学習内容・学習活動	評価の観点	
				評価規準	評価方法
第一次（2時間）	1	旋律の音のつながり方を生かし、同音進行、順次進行で2小節の旋律をつくる。 「陽気な船長」 「よろこびの歌」	○「よろこびの歌」と教師がつくった任意の旋律を聴き比べ、まとまりのある旋律について関心をもち。 ○二つの旋律を比較する。 ・聴き比べる。 ・階名で歌って比べる。 ・楽譜に旋律線を書き込み、見比べる ・音の進み方について気付きを出し合う。	【関】① 旋律の特徴に関心をもち、見通しをもってまとまりのある旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	振り返りカード

第二次 (4時間)			○旋律をつくる。 ・つくり方を確認する。 ・同音進行・順次進行を使って2小節つくる。 ・聴き合う。	【技】① 旋律の音のつながり方（同音進行・順次進行）を生かし、見通しをもって2小節のまとまりのある旋律をつくっている。	ワークシート（音楽構成図）
	2	旋律の音のつながり方を生かし、跳躍進行を使って2小節の旋律をつくる。 「よろこびの歌」 「友だちはいいな」	○二つの旋律を比較する。 ・聴き比べる。 ・階名で歌って比べる。 ・楽譜に旋律線を書き込み、見比べる。 ・音の進み方について気付き出し合う。 ○旋律をつくる。 ・跳躍進行を使って2小節つくる。 ・聴き合う。	【創】① 旋律の音の高さの変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 【技】② 旋律の音のつながり方（跳躍進行）を生かし、見通しをもって2小節のまとまりのある旋律をつくっている。	ワークシート（音楽構成図） ワークシート（音楽構成図）
	3	旋律の始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、どのように8小節の旋律をつくるかについて、自分の考えや意図、見通しをもつ。	○二つの旋律を比較する。 ・聴き比べる。 ・楽譜を見比べる。 ・1段目と2段目の違いについて気付きを出し合う。 ・音の使い方について楽譜で確認する。 ○グループで旋律をつくる。 ・つくり方を確認する。 ・役割分担する。(①②③) ①始まる感じをつくる ②続く感じをつくる ③終わる感じをつくる ・つくりたい音楽の形について話し合う。 ・一人2小節ずつつくり、3人でつなげて8小節（AA'）の形にする。 ・聴き合う。	【創】② 旋律の反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 【創】③ 反復や変化を聴き取り、始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。	ワークシート（音楽構成図）
	4 (本時)	「静かにねむれ」 1段目と2段目			ワークシート（音楽構成図）
	5	旋律の始まる感じ、続く感じ、終わる感じ、反復を生かし、見通しをもってまとまりのあるハ長調の8小節の旋律をつくる。	○自分のつくりたい旋律のイメージをもつ。 ・リズムパターンを選択する。	【関】② 始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、音を音楽に構成することに興味関心をもち、見通しをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	振り返りカード
	6		○一人で旋律をつくる ・パソコンソフトを使って8小節の旋律を（AA'形式）をつくる。 ・聴き合う。	【技】③ 旋律の反復や変化、始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、8小節のまとまりのある旋律をつくっている。	作品

8 本時の展開

【第二次】

第4時

(1) 本時の目標

- 始まる感じ、続く感じ、終わる感じを考へて、見通しをもつてまとまりのある8小節の旋律（A A'形式）をつくることができる。

(2) 場所 音楽室

(3) 準備物

児童：鍵盤ハーモニカ、筆記用具

教師：キーボード、提示用資料（拡大楽譜）、ワークシート、音楽構成図

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1 学習課題をつかむ。	○児童の振り返りを紹介し、前時の学習を振り返らせる。	
始まる感じ、続く感じ、終わる感じを考へてまとまりのあるせんりつをつくろう		
2 つくり方のルールを確認する。	○つくり方に従って、一人2小節の旋律をつくり、三人でつなげて8小節の旋律をつくることを伝える。 始まる感じ…ドミソのいずれかで始める。 続く感じ…ドの音以外でつなぐ。 終わる感じ…ドで終わる。	
3 グループで旋律をつくる。 ・役割分担をする。 ・見通しをもつ。 ・旋律をつくる。	○始まる感じ、続く感じ、終わる感じについて、再度グループ内でつくり方を確認させ、つくる旋律の担当を決めさせる。 ○音楽構成図をもとに、曲の山をどのあたりにもつてくるなど、つくりたい音楽全体の形を話し合ってから、旋律づくりに取り組ませる。 ○いろいろと試しながら旋律をつくっていくようにさせ、その都度音楽構成図に書き込ませる。	【創】③ 始まる感じ、続く感じ、終わる感じを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の考へや願ひ、意図、見通しをもっている。 (ワークシート) (音楽構成図) (ビデオ観察)
4 発表する。	○工夫したところ（どのような音楽にしたいと話し合ったか）を発表してから、演奏させる。 ○他のグループのつくった旋律がどんな雰囲気なのか、まとまっているかなど、考へながら聴かせる。 ○教師は基本の拍を打ち、拍の流れにのって演奏できるようにする。	
5 本時のまとめをする。 ・振り返りカードを書く。	○分かったこと、感じたことを記入させる。 ○数名発表させ、次時の学習の意欲につなげる。	

< 具体の評価規準にCと判断される状況への働きかけ >

- ・使う音を3～4音に限定し、順次進行で旋律をつくるようにする。
- ・児童のつくりたいイメージがどのような旋律か何種類か提示し、つくり方のヒントを示す。

< 具体の評価規準におけるAと判断される状況 >

- ・始まる感じ、続く感じ、終わる感じ、曲の山など、つくる音楽全体の形について何通りか意見を出し、自分たちが考へた音楽のイメージに近づくよう、音のつながりなどについて友だちに助言をしながら旋律をつくっている。